

## 【会員だより】

## 繋がり大切さ

京都中部総合医療センター 塩貝光司(短15回生)

私が卒業してから17年が経ち学生時代を思い出すと、1年生の時から野球部に所属していたので先輩達と交流がありよくしてもらっていました。

学業に関して初めは授業についていくのが本当に大変で特に1年生の時はなんとか単位を取れて進級できた程度でしたが、2年、3年生となるにつれて徐々に授業が理解できるようになっていきました。これも勉強面でも先輩に教えてもらえたおかげでした。

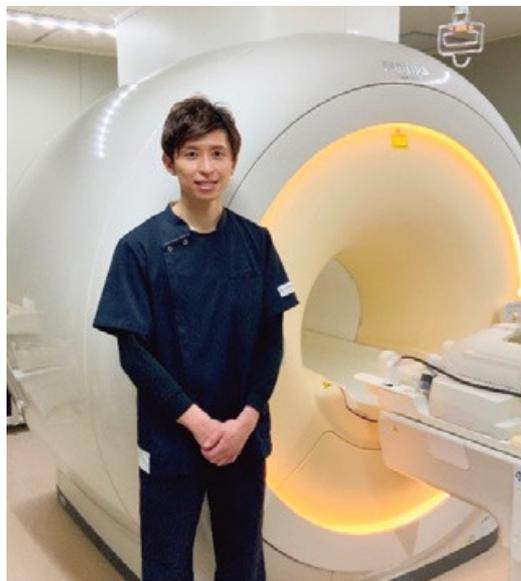
学生時代一番楽しかったことは友達と京都市内で飲み会をした後、ボーリング、カラオケを一晩中していたことかなと思います。今では考えられませんが。

反対に一番きつかったことはやはり国試に向けての試験勉強でした。でも同じ目的を持って勉強していた先輩や同期がいたからあんなに頑張っていたんだと思います。今でも繋がっている先輩や同期には仕事で助けてもらうこともあり、学生時代に繋がった先輩、友達は本当に大切な存在であることを感じています。

現在は母校と同じ南丹市にある京都中部総合医療センターに勤務しています。ここ3年ほどは新型コロナの影響で当院は数回のクラスターを経験しました。私は日本DMATに所属しているため院内でクラスターが起こればコロナ対策本部に配属になり、感染拡大を防止するため情報収集及び提供に尽力しています。

新型コロナ感染が流行し始めてから臨床を離れて仕事をする機会が多くなりましたが、技師の仕事だけでは分からなかった院内の他職種の仕事の様子が分かったこと、組織として一つの目標を達成するためのプロセス等を経験する貴重な機会になっています。

医療業界においてはいつまでこのコロナ対応が続くのかまだ先が見えてきませんが、私たち診療放射線技師が非常に重要な役割を担っていることに誇りを持ってなんとか乗り切りましょう。そしてまた同期で集まってお酒の席で思い出話や現状報告ができることを待ち望んでいます。



以上